

所属・資格 史学科・教授

申請者氏名 森 ありさ

研究課題		近代ヨーロッパにおける戦争とモニュメントの比較研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	ナポレオン戦争以降のヨーロッパ諸国、とくにブリテン諸島を中心に、戦中から戦後に建てられた軍事共同墓地、慰霊碑などの現地調査をおこない、それらのコンセプトを分析した上で、追悼や国家間の和解のあり方を考察する。
	研究の結果	ナポレオン戦争期の戦没者埋葬に関して、海軍は水葬が一般的であった。しかしジブラルタルのブリテン海軍共同墓地とアングリカン教会には、トラファルガー沖海戦戦没者の墓碑類が少なからず残されており、これらの調査を行なった結果、以下の知見を得ることができた。過年度にワーテルローの教区教会で調査した陸軍戦没者の墓碑と同様、この時期の海軍の墓碑（必ずしも遺体の埋葬地ではないが）は将校クラスに限定され、家族や連隊による私的な建立であることが確認された。この点が第一次世界大戦期以降の、国家による墓地・墓碑建設と、すべての戦没者の平等な扱いというコンセプトと決定的に異なっている。
	研究の考察・反省	ナポレオン戦争期の墓碑やメモリアルは、第一次世界大戦期と同様に、戦時の国籍で明確に区分されていることが確認されたが、世界大戦に関しては100周年期を機に交戦諸国間の和解のメモリアル建物が各地で進められてきた。ナポレオン戦争に関しても200周年期を経て、類似した動きがあることは、報道資料から把握できたが、現地での新設メモリアル調査には着手できなかった。メモリアルの分析にあたっては、立地の意味から碑文やデザイン・コンセプトなどを総合的に調査、考察する必要がある、これには新聞記事の情報のみでは不十分である。イベリア半島やフランスでのこうした調査が今後の課題である。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所 研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>上野格、森ありさ、勝田俊輔編 『世界歴史大系 アイルランド史』山川出版社、2018年6月、504頁</p> <p>森ありさ「書評 小関隆著『アイルランド革命1913-23 ―第一次世界大戦と二つの国家の誕生―』」『エール』第38号、2019年3月、103-108頁</p>	